

浮気許容度と愛着関係についての研究

目的と先行研究

本研究の目的は、大学生の浮気に対する許容度と愛着関係について調査した。排他的の「ある特定のひとと恋愛関係にある個人が、それ以外の異性との関係を抑制することに関して示す感情や行動」を大学生の恋愛観に注目した。

浮気とは

一般的に「配偶者・婚約者などありながら、他の異性にひかれ、関係をもつこと」を意味するが、近年では恋人同士であっても「浮気」という用語が使われている。(牧野, 2011)

愛着関係

アタッチメント(attachment:愛着)とは

人が特定の他人に対して形成する情緒的な絆である。アタッチメント対象となる者との物理的、精神的接触を持とうとする行為をアタッチメント行動という。乳幼児は危険や不安に対して無力なため、保護や安心感を与えてくれる養育者(多くは母親)に対してアタッチメントを形成する。アタッチメント理論では、乳幼児は与えられるだけの存在でなく、積極的に母親から保護や情緒的サポートを引き出そうとしていると考えられる。(小泉 齊 藤)

愛着パターンの「安定型」「回避型」「不安型」ある人間の不倫のしやすさ(あるいは、不倫のしかた、不倫に求めるもの)に影響を与える要因のひとつに、「愛着スタイル」と呼ばれる脂質がある。

方法

首都圏の私立大学の心理学系の2科目を受講している学生113名を対象に浮気の態度と関連要因についての質問紙を配り調査を実施した。

結果

質問紙調査によって得たデータを統計的に処理し分析を行った。

表1. 各変数間の浮気態度と母子関係の男女差

	男性		女性		t値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
浮気許容度	2.98	0.7	2.71	0.58	2.15*
浮気否定態度	3.76	0.8	3.37	0.65	-4.02
浮気への憧れ	1.53	0.58	1.4	0.45	1.13
積極的容認	1.8	1.32	1.9	0.7	-0.41
消極的容認	1.91	0.8	1.92	0.73	-0.35
愛着自己評価	2.29	0.53	2.32	0.32	-0.39
愛着他者評価	2.43	1.01	2.48	0.81	-0.41
安定的母子関係	2.69	0.79	3.14	0.7	-3.08**
拒否的母子関係	1.59	0.72	1.59	0.68	0.05
アンビバレント母子関係	1.6	0.89	1.88	0.74	-1.93

表2. 各変数間の浮気態度と母子関係の相関係数

	相関係数								
	浮気許容度	浮気への憧れ	積極的容認	消極的容認	愛着自己評価	愛着他者評価	安定的母子関係	拒否的母子関係	アンビバレント母子関係
浮気許容度	1								
浮気への憧れ		1							
積極的容認			1						
消極的容認				1					
愛着自己評価					1				
愛着他者評価						1			
安定的母子関係							1		
拒否的母子関係								1	
アンビバレント母子関係									1

*;p<0.05 **;p<0.01 ***;p<0.001

*;p<0.05 **;p<0.01 ***;p<0.001

表1で男女差についてt検定を行った。T検定浮気許容度t(107)=2.15,p<0.05有意な差が認められた。安定的母子関係t(109)=-3.08,p<0.01優位な差が認められた。よって、男女の差が出たものは浮気許容度と安定的母子関係であった。

表2から、浮気への積極的容認は、浮気への憧れと正の相関(r=.312,p<0.001)すなわち、浮気への消極的容認は、浮気への憧れと正の相関(r=.472,p<0.001)浮気への積極的容認と正の相関(r=.443,p<0.001)。自己に関する内的作業モデルは、浮気への積極的容認と低い正の相関(r=.195,p<0.05)浮気への消極的容認とやや高い正の相関(r=.285,p<0.01)。他者に関する内的作業モデルは、浮気否定態度とやや高い正の相関(r=.221,p<0.01)自己に関する内的作業モデルと高い正の相関(r=.447,p<0.001)。安定的母子関係は、浮気への積極的容認と高い相関(r=.316,p<0.001)浮気への消極的容認とやや高い正の相関(r=.247,p<0.01)自己に関する内的作業モデルとやや高い正の相関(r=.260,p<0.01)他者に関する内的作業モデルと高い正の相関(r=.338,p<0.001)。拒否的母子関係は、他者に関する内的作業モデルと低い負の相関(r=-.210,p<0.05)安定的母子関係と高い負の相関がみられた(r=-.572p<0.001)。アンビバレント母子関係は、自己に関する内的作業モデルとやや高い相関(r=.248,p<0.01)安定的母子関係と高い正の相関(r=.347,p<0.001)。

考察

浮気の許容度の相関分析の結果、自己に関する内的作業モデルは、積極的容認に低い相関、消極的容認にやや高い相関がみられた。このことから、自己に関する内的作業モデルが高いと浮気への誘惑に対しての関心が低いとみられた。他者に関する内的作業モデルは、浮気否定態度にやや高い相関、自己に関する内的作業モデルに高い相関がみられた。このことから、人を信頼できる人は、浮気にたいして否定的である。安定的母子関係は、積極的容認に高い相関、消極的容認にやや高い相関、自己に関する内的作業モデルにやや高い相関、他者に関する内的作業モデルに高い相関がみられた。このことから、母子関係が安定していると浮気を許しやすく、パートナーをあまり疑わないため信頼関係ができていると考えられる。拒否的母子関係は、他者に関する内的作業モデルにやや高い負の相関、安定的母子関係に高い負の相関の相関がみられた。このことから、拒否的母子関係は、愛着スタイルの回避型にあてはまり、人を信用することが出来ず安定的に母子関係が安定していないのである。アンビバレント母子関係は、自己に関する内的作業モデルにやや高い相関、安定的母子関係に高い相関がみられた。このことから、母親との関係が不安定であるが、母親との愛着ができていることがみられた。

t検定を行い、許容度を男女別に比較した結果、浮気許容度に有意な差が認められた。すなわち、男性のほうが、浮気許容度が高いといえる。そして、安定的母子関係に有意な差がみられた。このことから男性より女性のほうが、安定的母子関係がよい。相関係数とt検定のほかに、重回帰分析も行ったがあまりよい結果が出なかった。

中野信子 2018「不倫」文春新書

牧野 幸志 (2011) 青年期における恋愛と性行動に関する研究(2)―浮気の判断基準と浮気に対する態度― 19(1)41-56

増田 匡裕 (1994) 恋愛関係における排他性の研究 34(2)164-182